



JACET通信

大学英語教育学会

March 2008

The Japan Association of College English Teachers

No.163

[巻頭言]

学会活動の厳正化 —— JACET 運営のあり方と主たる活動を考える ——

JACET 会長 森住 衛
桜美林大学

前回の本誌『JACET 通信』号外（2007年11月下旬）で社団法人化の趣旨や定款などの報告をしました。その後、文科省からは2010年度の収支の見通し、専務理事・常務理事の設置の要請などが出ていて、現在、法人化準備委員会を中心にその対応にあたっているところです。3年先の2010年とは遠い話ですが、公益法人に関する新しい法令が今年の暮れから来年春に出ますので、それからの2年間に対応した申請を要求されています。専務理事・常務理事は企業に多く見られる役職名ですが、公益法人としてこの役職を設けておくのが望ましいと要請されています。このように新たに出てきた問題にも対処していますので、現段階（2008年1月下旬）では、4月1日に社団法人化を見込んでいますが、最終の認可は得られていないという状態です。

本稿では、今回の法人化を準備する過程で改めて明らかになったことが2点ありますので、その報告をいたします。1つは、活動計画や収支を決定する時期など運営のあり方に関することです。もう1つは、学会の主たる活動や事業内容に関することです。2つを合わせて一言で表しますと「学

会活動の厳正化」となるかもしれません。これは、昨年の5月に私が会長2期目の就任にあたって出した3つの方針のうちの2番目の「体制の整備」にも関係していることです。

活動計画や予算決定の運営のあり方

年度の活動計画や予算はこれまではその年度の9月の理事会と総会で決定されていました。つまり、4月からの5ヶ月間、活動の方針や予算の本決定がないままその年度の活動を始めていました。このようなことは、公益法人のような公の機関になると許されません。遅くとも前年度の最終月（3月）には、次年度の活動や予算が決められていなくてはならないのです。人事についても同じことがいえます。これまでは3月の春期理事会で運営委員会担当理事などを内定して、4月からの活動を始めていました。支部長や各支部選出の理事その他の役員の一部は6月の支部総会で内定し、9月に正式決定をして、任期は4月に遡るという便法をとっていました。

この方式でこれまで済んできたのでこれでよいという議論があるかもしれません。しかし、この

便法は公益法人としては使えません。いや公益法人でなくても、本来、次年度の活動計画・予算・人事は前年度中に決まっているべきで、これが組織としての運営のあり方です。こうすると、会員のみなさんが学会活動の展望をもって新年度を迎えられます。役員担当の心づもりや勤務校への報告などの点でも万全を期せます。このようにするためには、新年度の活動の大綱は、前年度の9月の理事会・会員総会で大筋を決め、12月の組織構成委員会でこれを固め、3月の理事会・代議員総会で確定する、という過程を踏めばよいわけです。今後はこのようにできればと考えています。

JACET に特化した活動・事業

今回の法人化のために、法人設立趣旨書の作成や定款の第5条（事業）の中身の検討もしています。この際に浮上してきたのは JACET の主たる活動や事業は何かということです。私たちの学会には「冠」が3つ付いています。「大学」「英語」「教育」です。JACET がおこなう活動・事業はこの3つに関係していることが条件になります。特に、「大学」（短大や高専も含む）という場と関係させることが重要です。このために、たとえば、早期英語教育の授業研究会を立ち上げたり、中学の教員養成についてのセミナーを開いたり、高校の教科書開発について提言を出したりするのは、JACET の主たる、あるいは、本来の事業ではないということになります。

これまで JACET は広く応用言語学に関する研究・実践をおこなってきました。現在、国際応用言語学会の日本支部でもありますし、1999年には AILA99 を東京で開催したこともあります。そういえば、1990年代の初頭 AILA99 の話が持ち上がった当時、JACET を JAAL（日本応用言語学会）に発展的解消すべきだという議論がおこりました。私もこれに与した一人ですが、これは時期尚早として見送られました。いずれにしても、JACET の研究対象や活動は広い範囲にわたっています。

この活動や研究の広さ自体はよいことですが、現在の文科省との折衝では、JACET の主たる活動・事業は「大学英語教育」に関係させることがこれまで以上に要請されています。たとえば、上記の授業研究や教員養成、教材開発も「大学における」

という条件が付くことが望まれています。これは、大学以外の分野の研究・実践ができないということではありません。関連分野を取り上げるときも最終的には「大学英語教育」の振興・発展のためという視点を入れればよいのです。入れ方の程度や方法はいろいろあると思います。このように、今回の法人化は、JACET の拠って立つ基盤（レゾナードール）は何か、社会・教育的に責任を果たす分野や場はどこかを改めて問い直すきっかけとなっています。

以上、2つの点を取り上げましたが、考えてみますと、活動計画や予算・人事の決定時期も、JACET の主たる活動や事業も、法人化云々にかかわらず常に問い直しておくべきことでした。今回、このことが確認できましたが、今後、理事会や総会、本部・支部の日常活動などでも、この「活動の厳正化」の視点で学会運営や主たる事業内容をみていければと願っています。

私のゼミ紹介

吉田 研作
上智大学

今回、私の英語科教育法の授業を紹介しよう。この授業は、主に、学生の模擬授業と教え方についてのディスカッションからなっている。週2回、秋学期に開講している授業だが、毎年40名から50名の受講者がいる。上智大学の場合、文学部の英語科教育法は、英文学科の教員が中心に教えているが、その他の学科の学生は、英語学科が開講している授業を受講することが多い。英語学科では、英語科教育法 I, II, III, IV（各2単位）と私の英語科教育法（4単位）を開講している。私の授業以外は、週1回の半期授業である。

私の授業は、英語科教育法と言っても、かなり変わった授業である。なぜなら、学生は、英語を教えないからである。例えば、2007年度は、10グループ（1グループ4から5人）が模擬授業を

行ったが、扱った言語は、韓国語、フィリピン語、マレー語、インドネシア語、琉球語、ポルトガル語、ドイツ語、アメリカ手話、イタリア語、そしてハワイ語だった。何語を教えるかは、各グループが決めるが、第2外国語として比較的多くの学生が学んでいるスペイン語とフランス語は除外した。

私の授業の目的は、知らない言語を学ぶ生徒の気持ちになって授業を受けることにより、教え方の善し悪しについて考えることにある。従って、学生がみんなよく知っている英語、あるいは、比較的多くの学生がとっている第2外国語は目標言語として選ぶことができないのである。

ところで、英語を教えない英語科教育法なんてあるのか、という疑問があるかもしれない。実は、学生たちは、上記の各言語を「英語で」教えるのである。クラスルーム外国語については、できるだけ目標言語のものを、しかし、ティーチャー・トークは英語で行うように指導している。勿論、タスク等で複雑な指示が必要な場合は日本語で行ってもかまわない。

学生たちは、週2回模擬授業をする。一回の模擬授業は60分で、残り30分を模擬授業についてのディスカッションとリアクション・ペーパー作成に充てている。ディスカッションは、授業内容や教え方についての質疑応答と自由に意見を述べ合う場になっている。その後で書くリアクション・ペーパーは、授業担当者に渡す。授業担当者は、1回目の授業に対するリアクション・ペーパーを基に、2回目の授業をする（内容的には1回目の授業の続き）。2回目の授業についてのリアクション・ペーパーは、学期末に提出させるレッスン・プラン作成の参考にする。なお、リアクション・ペーパーは、最後にはすべて私が集め、内容をチェックした上で、出欠に使っている。

学生たちの模擬授業の前に、私が数回英語教育、特に、コミュニカティブ・アプローチについて講義をしている。また、具体的な教え方の指導として、Display 活動と Referential 活動の例を示し、模擬授業が単なる Display 活動のみにならないよう、必ず Referential 活動を入れるよう指導している。また、学習指導要領で求められている内容についても講義をしている。

学生たちは、数週間かけて、自分たちにとって

も初めて学ぶ外国語の教え方について考え、模擬授業の準備をするが、その間、私は授業の後の時間を使ってそれぞれのグループの準備の指導をしている。なお、実際の模擬授業の際には、私も参加して一生徒になるので、あてられることがよくある。しかし、学生と一緒にペア・ワークやグループ・ワークをするのは、結構楽しいものである。時には、間違えて恥をかくこともあれば、逆にうまくできたときは「学生先生」から賞品をもらうこともある。

また、休みが入り、きりが悪い時は、私が教え方についてのデモンストレーションをしたり、講義をしている。毎年どこかで入れているのは、音楽やリズムを使った教え方（Jazz Chants や歌）だが、今年度は、中央教育審議会の答申と新学習指導要領についての講義も行った。

学生の評価は、模擬授業、リアクション・ペーパー、出席、グループ毎に提出させるレッスン・プラン、そして、各自が書くレポートを基につけている。グループ毎のレッスン・プランは、それぞれのグループが担当した模擬授業を「もう一度やるとしたら」どうしたいか、というテーマで、ディスカッションやリアクション・ペーパーを参考に作成、各自が書くレポートは、日本の英語教育について自由に書かせている。

このような授業を行う中で気付いたこととして以下のことをあげておく。

- 1) 英語ができるからと言って英語のティーチャー・トークができるとは限らない。学生の中には、帰国子女もいるが、英語がいかにかうまくても、英語で授業を運営したり、内容を説明するのは難しい、ということを学生自身が気づいてくれていることが、ディスカッションやリアクション・ペーパー等でわかる。
- 2) たとえ初級の最初の授業でも、Referential 活動を入れることは可能だ、ということをもとの発表でも実現してくれている。初級では、まだ communicative なタスクなどは入れられない、という間違った考え（構造シラバスを使っている人）があるが、そんなことはない、ということを学生たちが示してくれている。
- 3) 知らない言語を学ぶことの楽しさを学生たちが体験している。学期中に習った新しい言語のちょっとした表現を学生たちは、結構覚えており、

知らない言語を学ぶことへの自信が付いているようである。

なお、この授業は、私が学生に「負ける」ようになるまで、老化防止のためにも続けようと思っている。今年で還暦を迎えるが、まだ数年は行けそうな気がする。

特色ある 大学英語教育プログラム

富山 真知子・国際基督教大学

1. はじめに

国際基督教大学（ICU）はリベラルアーツ教育を理念として掲げ、開学以来一貫してその実践に努めて来た。日英バイリンガル教育を謳い、リベラルアーツを標榜する大学における英語教育の例としてICUの英語教育課程（英語名称 English Language Program, ELP）を紹介する。

21世紀のリベラルアーツ教育のめざすところは、真の意味で「自由」になるための教育の提供と「自覚的学修者」（intentional learners）の育成である。そのためには論理的思考能力、理解力、分析力、統合力、判断力などを含む知的活動能力の育成が欠かせない。いわゆる総称としてのクリティカル・シンキングである。加えて、自己表現能力、自立性、自らを客体化して捉える能力を育むことなどがリベラルアーツ教育の核となる。このような目標を持つ大学の枠組みの中で実践され

ている英語教育であるということをも指摘しておきたい。

2. 目的

このように ELP は ICU 全体の教育目標の一環として捉えられているので、英語の運用能力を育成するという目的はもちろんであるが、上に述べたような能力、ここではまとめて「アカデミック能力」と呼ぶことにするが、その知的能力を英語で培うという二つの目的を持っている。ひとことで言うならば「アカデミックな目的のための英語」（English for Academic Purposes）である。すなわち、ELP では「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の四技能をアカデミアで通じるレベルにまで到達させる統合的な訓練が行われる。と同時にその学習過程を通して「アカデミック能力」の育成をはかるという使命も担っているのである。

3. カリキュラム

ELP のカリキュラム上の特徴は統合的アプローチ（Integrated Approach）であるということと、内容中心アプローチ（Content-based Approach）であるということに集約される。統一された内容によって統合的な学習をめざし、内容を中心として各コースが有機的に結びつけられている。「統合」はコースの統合、扱う内容の統合、スキルの統合を意味している。扱う「内容」は、リベラルアーツという観点から、「教育の価値」、「生命倫理」、「文学」などさまざまなトピックが、異なる視点から提供される。

さて、ELP は上に述べたような目的を持つカリキュラムであるので、4月入学生であれば専攻に関係なく、1年次、2年次に全員が履修する。総単位数は卒業要件136単位の内の22で、他大学に比べるとかなりの単位数、割合ではないかと思われる。そのため、1年次の大半はELPが占め、学生はセクションと呼ばれる少人数のクラス（20名程度）の仲間と共に、明けても暮れてもELP三昧の日々を過ごすことになる。

ELPは習熟度別のプログラムである。入学時までの習熟度やそれまでの英語教育の履歴を考慮し、配属される。履修単位数は異なるものの、ELPの理念上、いずれのプログラムも到達目標は変わらない。





具体的カリキュラムの実際は紙幅の関係上述
べることはできないので、『ICUの英語教育—リ
ベラル・アーツの理念のもとに』（富山（編）、
2006年、研究社）を参照されたいが、大まかに
言って、各科目はその性質上、大きく二つに分け
られている。ひとつは、カリキュラムの中核をな
すコース群で、読解資料の内容理解、アカデミック
能力の養成、さらにアカデミックライティング
に焦点をあてたものであり、もうひとつはスキル
に焦点をあてたコース群である。前者では、学生
は資料の読み込みを出発点として、講義、討論な
どを通じて多様な意見に触れ、自らの意見を構築
し、論文という形で自己表現し、フィードバック
を得るという一連のアカデミックな活動を体験す
る。この学習過程を通して英語運用能力を高め、
アカデミック能力を培っていくわけである。一方、
後者のコース群はコミュニケーションに関わる技
能習得を目標としており、講義を聞いてノートを
とる、資料に基づいて討論する、口頭発表するな
ど、いずれも大学というアカデミックな場で必要
とされるスキルを訓練される。このように、学生
は統合された二つの科目群の授業に能動的に参加
することが求められ、課題をこなし、リサーチス
キルを磨き、「自覚的学修者」の第一歩を踏み出す。

また、チュートリアル、講義、ディスカッション、
グループワーク、プレゼンテーションなど多様な
授業形態を持つ ELP においては、教員とのコミ
ュニケーションのみならず学生同士のコミュニ
ケーションもすべて英語でという約束事があり、英
語は、ELP が集中的に行われる 1 年次から自然
な形でキャンパスライフに取り入れられることにな
る。

4. 運営

ELP は毎年履修者 1100 名以上を対象に、時間
数 300 時間を越える授業を実施する大規模なプ
ログラムでもある。専任教員は 30 名を越えるが、
先に述べたカリキュラムの特色上、専任教員主体
でないと成り立たないプログラムでもある。従っ
て、非常勤教員は 10 名ほどに過ぎない。日本語
話者、英語話者の教員がそれぞれの役割を担い、
統一した理念と具体的シラバスを共有し、絶えず
密に連携し合っこそ、統合的なプログラムの運
営が可能になる。また、ELP の教員が、こうした
環境のもとにいるからこそ、同じ専門学問を持つ
同僚として互いに研鑽し合うことも可能になり、
ELP の質の向上に寄与していると思われる。

すでに述べたように ELP は 1 年次の大半を占
める。時間割ひとつを取ってみても全学の教員や
事務スタッフの理解と協力がなければ成り立たな
いことは明白である。ELP は大学の理念実現のた
めの重要な教育課程であるとの認識が全学に共有
された上で、はじめて実践できるプログラムなの
である。



5. おわりに

ICUの英語教育は英語運用能力の向上とアカデミック能力の育成という確固たる目標のもとに作られており、リベラルアーツ教育の実現のための一環を担う重要な使命を与えられている。英語教育の目的が大学全体の教育理念と連動してこそ、真に意味のあるものになると考える。

研究会紹介 (中部支部)

待遇表現研究会

代表 堀 素子・関西外国語大学

中部支部に属する待遇表現研究会は、現在中部支部では最も古株の研究会となりました。1994年に当時東海女子大学におみえになった堀素子教授が中心になり、英語の対人関係に関する言語使用面での分析を進めていこうという主旨のもとで結成された会は、「まさにこのような研究をしたかった」という仲間が全国から参集し、積極的な研究活動を進めてきました。毎回の研究会では研究員間で活発な論議がなされ、その中から研究テーマが次々と出てきて研究の進展につながっています。JACETの全国大会では研究会員による個人発表はもとより、シンポジウムやワークショップを含め、待遇表現研究会から毎年何らかの貢献をしてきています。

研究会の中心メンバー7人で申請した課題「日本人が話す英語に見られる対人関係構築・維持上の問題点の解明」は平成15年と16年の2年にわたり科学研究費補助金を受けました。続いて平成17年度には研究成果公開促進費の補助を受けることになりましたが、それが『ポライトネスと英語教育—対人関係における言語の機能—』(2006年、ひつじ書房)の発刊へとつながりました。この著書が2006年度にはJACETの学術書部門で受賞の栄に拝しましたことをご記憶の先生諸賢もおいでのことと思います。JACET学術賞受賞は研究会の歴史の中のハイライトであり、メンバーにとって最高の喜びとなりました。

また本研究会会員は日本国内だけでなく海外の学会でも活発に発表を行ない、国際的なネットワークを広げています。主なものには1999年のAILA'99 Tokyo、2004年のシドニー大学主催の国際学会“Language and Culture”、同じく2004年開催のISFC31 (International Systemic Functionalist Congress)、2005年のIPrA (International Pragmatics Association) 国際大会(イタリア)、Asia TEFL 北京大会、2006年のSociolinguistics Symposium (アイルランド)、2007年度のIPrA (スウェーデン) 国際大会などがあり、2008年度も8月にドイツのエッセンで開催されるAILAにおいて、シンポジウム形式の発表をすることがすでに決定しています。この他にもメンバーが個人的に出かけて口頭発表を行った国際学会は数多くあります。

本研究会は日本の英語教育の向上も重要なテーマと考え、取り組んできました。研究会で得られた知見を取り入れた授業を試行し、学生の英語に対する態度や考え方の変化をみたり、英語能力の伸長を測定したりする研究も行っています。JACET全国大会でそれらの実践報告をするかたわら、2004年には研究員4人の共著で、対人関係機能に注目した英語のテキスト、Let's Be Friends! をマクミラン社から出版しました。このテキストはもともと大学生を対象として大学の授業用に書かれたものですが、一般企業の英語研修でもテキストとして採用しているところがあると聞いています。

最後に、待遇表現研究会代表を務められてきた堀素子先生が2008年度に退職されることを受け、研究会の代表が東海学園大学の津田早苗先生に代わります。2008年4月以降は津田・村田



2007年10月21日定例研究会 (於名城大学)

(副) 態勢で研究会が継続していきます。今まで同様活発な活動を展開していくことが期待されています。なお、研究会の中心メンバーの活動の詳細は Politeness Research Group というブログでご覧頂くことができます。ご興味のある方は是非一度 <http://happy.ap.teacup.com/applet/zunda/archive?rev=1> にアクセスしてみてください。

(待遇表現研究会副代表・村田泰美・名城大学)

本部便り

代表幹事 寺内 一・高千穂大学

2007 年度最後の「本部便り」になります。森住会長が「巻頭言」でも触れておりますが、現在 JACET 本部は 2008 年 4 月 1 日の社団法人化を果たすべく、業務の整理と準備をしております。文部科学省から正式認可がおりた場合には、新理事と代議員による「設立総会」を 2008 年 3 月 23 日に早稲田大学商学部で開催する予定です。なお、2007 年 11 月に発行された『JACET 通信(号外)』の「学会の社団法人化に関する報告」で私が報告した「定款最終案」等も、今後の文部科学省との最終折衝により若干の修正もあることが予想されます。従いまして、会員の皆様には正式に認可された「定款」等法人化関連の文書は改めてご提示いたしますので今回は途中経過の報告を割愛させていただきます。

1. 2007 年度春季理事会の開催

法人化に関しては、文部科学省からの正式認可を待っている状況ですが、2007 年度の春季理事会は例年通りに開催いたします。

日時：2007 年 3 月 23 日

場所：早稲田大学商学部大会議室

2007 年度春季理事会では、2007 年度の活動報告や決算と、2008 年度の活動計画案と予算案、人事案等が審議されます。下記の文書(抜粋)を 2008 年 1 月 29 日に各委員会と各支部の担当者に配信し、書類の作成を依頼しました。なお、法人化に備えて提出書類の形式統一を図っております。

2008 年 1 月 28 日
各支部長、各支部事務局幹事各位

いつもお世話になっております。

2007 年度春季理事会が 2008 年 3 月 23 日(日)に早稲田大学で開催されます。本理事会が任意団体としての最後の春季理事会および社団法人設立理事会となるのか、従来通りの春季理事会となるかに関してはまだ文部科学省から正式決定されておりませんが、例年のように各運営委員会及び各特別委員会の活動報告と事業計画を作成していただきたくご依頼申し上げます。

【提出書類および作成形式】

- ①「2007 年度活動報告」→ 従来どおりの形式で作成してください。
- ②「2008 年度事業計画案」→ 下記を参照してください。

【提出方法】 各支部事務局幹事より JACET 事務局寺内代表幹事宛

【提出様式】

・添付ファイルで事務局 jacet@zb3.so-net.ne.jp へお送りください。

・ファイル名は以下のようにしてください。

例：総務委員会の場合：

- ①「07 総務活動報告」
 - ②「08 総務事業計画」
- ・A4 サイズ

【提出締切】 2008 年 2 月 29 日(金) (締切厳守をお願いします。)

代表幹事 寺内 一

2. 2008 年度活動計画案

法人化に際しまして、活動計画には、各事業の項目ごとに目的・対象・規模・広報・成果を記載することが義務付けられ、活動報告にもそれぞれの結果を記載していくことになります。また、公的に認可された団体の活動内容も、より透明性を要求されることになります。以下、その「事業計画(案)」(抜粋)を記載しておきます。

社団法人大学英語教育学会

平成 20 年度事業計画(案)

平成 20 年度は本学会が社団法人となる(予

定の) 画期的な年度である。従って、これまで以上に社会的責任と、研究・教育に対する一層の良心的熱意とを持って活動を開始する年となる。また、本年度においては、大学英語教育学会 50 周年に向けて、学会をあげて大規模な活動を開始することになる。

以下は、定款、第 5 条、第 1 項、第 1 号から第 5 号に掲げる事業目的に基づいて企画された、平成 20 年度の事業計画の概要である。

1 号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践に関する調査・研究に係る全国大会及び支部大会、セミナー、講演会、研究発表会、研修会等の開催

- (1) 全国大会の開催
- (2) セミナーの開催

2 号事業：『紀要』『JACET 通信』等の出版物の刊行

- (1) 『紀要』の刊行
- (2) 『JACET 通信』の刊行
- (3) 『大学英語教育学大系』全 13 巻(予定)の刊行準備

3 号事業：大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践に関する調査・研究及びその結果の社会への普及・還元

- (1) 各専門分野の調査研究にかかわる研究会活動助成と活性化
- (2) ICT (Information/Communication Technology) 研究委員会(特別委員会)

4 号事業：大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する協力、支援等を通じての交流

- (1) 大学英語教育学会賞の表彰(学術賞・新人賞・実践賞)
- (2) 関係学術団体への派遣

5 号事業：前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

3. 支援センターからの会員管理業務と年会費徴収業務の引き上げ

『JACET 通信』162 号の「本部便り」でもご案内しましたが、社団法人化に伴い、「会員管理業務」と「年会費徴収業務」の株式会社大学生協事業センターへの委託業務を、2008 年 3 月 31 日

をもちまして、大学英語教育学会内に置く事務局に戻すことになりました。社団法人化に際しまして、事務局に事務局長と事務主任を専任で置くことが義務付けられました結果、支援センターに預けていた当該業務も学会内の事務局で対応することになったことが変更の理由です。

2008 年度からは年会費は郵便振替で納入していただくこととなります。また会員情報の変更方法も直接 JACET 事務局に連絡していただくこととなります。皆様には大変ご不便をおかけすることとなりますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

3.1 「年会費」の支払い

毎年 6 月末日までに「年会費」の支払いをお願いいたします。4 月初旬に皆様に配信します新「郵便振替用紙」をご使用ください。なお、同振替用紙を紛失なさった方は以下に連絡してください。

電話：03-3268-9686 FAX：03-3268-9695
jacet@zb3.so-net.ne.jp

昨年度同様、当該年度の会費未納者の方へは会費が納入されるまで JACET からの発送物を停止させていただいておりましたが、2008 年度も 10 月第 1 週に「督促状」の発送、その後 2 週間以内に納入されていない場合は発送の停止を行なうこととなります。また、当該年度中にお支払いがない場合は会員資格を失いますのでご注意ください。

3.2 所属・E メールアドレスなどの変更

会員の皆様の所属や E メールなどの変更は、「会員自ら」が JACET 専用の E メールアドレス jacet@zb3.so-net.ne.jp に直接連絡してください。

支部便り

〈九州・沖縄支部〉

1. 第 3 回支部紀要編集委員会

日時：9 月 1 日(土) 13:00～14:00

場所：宮崎県立看護大学

議題：

- (1) 支部紀要第 12 号再審査の結果について
- (2) 支部大会シンポジウムの掲載順序について

(3) 支部紀要第12号の印刷見積もりについて

(4) 今後の編集スケジュールについて

(5) 協賛広告の依頼について

2. 第4回運営委員会

日時：9月1日(土) 14:00～17:00

場所：宮崎県立看護大学

議題：

(1) 秋季学術講演会について

(2) 2008年度支部研究大会について

3. 第71回東アジア英語教育研究会

日時：9月22日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：津田晶子(中村学園大短期大学部)

発表題目：大学英語教育のニーズ分析とプログラム評価：「接続的」「継続的」「国際的」なカリキュラム開発の視点から

4. 第72回東アジア英語教育研究会

日時：10月20日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：沖洋子(長崎県立松浦高)

発表題目：語学教育における課題中心アプローチ

5. 第4回 ESP Corpus Workshop

日時：10月27日(土) 12:30～17:30

場所：長崎純心大学(情報演習室3)

発表者：投野由紀夫(東京外国語大)

6. 第5回運営委員会

日時：11月10日(土) 13:00～15:20

場所：西南学院大学学術研究所

議題：

(1) 支部紀要規程改正案について

(2) 秋季学術講演会について

(3) 次回支部研究大会について

7. 第73回東アジア英語教育研究会

日時：11月17日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：樋口晶彦(鹿児島大)

発表題目：韓国初等学校の英語教育—第七次教育改革と忠清南道の現状—

8. 九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* 第12号発行(11月30日)

9. 第11回ESP研究会

日時：12月15日(土) 14:00～17:00

場所：熊本大学・大学教育機能開発総合研究センター B202教室

研究発表：

(1) 「lexical bundleによる stance/evaluationの分析—医学英語論文コーパスを利用して—」横山彰三(宮崎大)

(2) 「看護学生による英語オンライン交流—その方法と課題—」荒木瑞夫(県立宮崎看護大)

(3) 「EMP-Blended Learningの試み」安浪誠祐(熊本大)

10. 第74回東アジア英語教育研究会

日時：12月15日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：石川慎一郎(神戸大)と神戸大大学院生

発表題目：ワークショップ・アジアの英語教育を考える

11. 第6回運営委員会

日時：12月22日(土) 13:10～14:20

場所：西南学院大学

議題：

(1) 次回支部研究大会について(大会実行委員の承認等)

(2) ニューズレター原稿依頼について

12. 秋季学術講演会

日時：12月22日(土) 15:00～16:45

場所：西南学院大学2号館304教室

発表者：Oryang Kwon (Seoul National Univ., Korea)

発表題目：Teaching English in Korea: Current Issues and Challenges

講演会後、懇親会および支部忘年会を開催

13. 第75回東アジア英語教育研究会

日時：1月26日(土) 15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205号教室

発表者：中野秀子(九州女子大)

発表題目：英語学習と脳神経科学

14. 第1回支部大会実行委員会(予定)

日時：2月1日(金) 13:30～

場所：宮崎県立看護大学

15. 第7回運営委員会(予定)

日時：2月2日(土) 14:00～

場所：西南学院大学学術研究所

議題：

(1) 次回支部研究大会について

(2) その他

16. 第76回東アジア英語教育研究会 (予定)
日時: 2月16日(土) 15:30~17:30
場所: 西南学院大学1号館205号教室
発表者: 原隆幸(明海大非常勤講師)
発表題目: 香港における英語教員養成の現状と日本への示唆

17. 第2回支部大会実行委員会 (予定)

日時: 3月15日(土)

18. 第8回運営委員会 (予定)

日時: 3月15日(土)

19. 第77回東アジア英語教育研究会 (予定)

日時: 3月15日(土) 15:30~17:30

場所: 西南学院大学1号館205号教室

発表者: Jan Stewart (筑紫女学園大)

20. 支部ニューズレター No. 24 (4月15日発行予定)

21. 第78回東アジア英語教育研究会 (予定)

日時: 4月19日(土) 15:30~17:30

場所: 西南学院大学1号館205号教室

発表者: 森礼子(福岡県立大)

22. 第3回支部大会実行委員会 (予定)

日時: 5月10日(土) 13:00~

23. 2008年度第1回運営委員会 (予定)

日時: 5月10日(土) 14:00~

24. 春季学術講演会 (5月開催予定)

25. 九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* 第13号投稿締切り (5月31日)

26. 2008年度第1回支部紀要編集委員会 (予定)

日時: 6月14日(土) 12:00~

場所: 西南学院大学

議題:

(1) 支部紀要第13号の編集・出版スケジュールについて

(2) 現在の投稿状況について

(3) 編集委員の欠員について

27. 第4回支部大会実行委員会 (予定)

日時: 6月14日(土) 13:00~

28. 第2回運営委員会 (予定)

日時: 6月14日(土) 14:00~

29. 第2回支部紀要編集委員会 (予定)

日時: 7月4日(金) 16:00~

30. 第3回運営委員会 (予定)

日時: 7月4日(金) 17:30~

31. 第22回支部研究大会および支部総会 (予定)

日時: 7月5日(土)

場所: 宮崎県立看護大学

大会テーマ: 「国際交流による英語教育—その可能性と課題—」(仮題)

(志水俊広・九州大学)

〈中国・四国支部〉

1. 第2回大学英語教育学会中国・四国支部ブロック1研究会

日時: 11月25日(日) 13:15~16:00

場所: 広島国際大学国際教育センター

研究発表:

(1) 「小学校英語活動に対する中学校英語教員の態度および意識に関する調査研究—中学校入学時に求められる到達目標に関する一考察—」小銭恭子(広島大(院))

(2) “A Study on English and Non-English Major University Students’ Motivation to Learn Spoken English in Bangladesh” Quadir Mst. Moriam (Hiroshima Univ. (IDEC))

(3) “The creation and use of corpus-based JACET 8000-informed frequency lists for ESL/EFL undergraduate reading courses” Warren Tang (Hiroshima Univ. (IDEC))

(4) ““Kin” Reduced Forms Improve Listening Comprehension?” Julia Mika Kawamoto (Graduate student and part-time teacher at Hiroshima City Univ.)

(5) 「L1とL2に於ける使用語彙の差異 — コミュニケーション方略の観点からの数量比較 —」小西廣司(松山大)、岩井千秋(広島市立大)

2. 第2回大学英語教育学会中国・四国支部ブロック2研究会

日時: 12月9日(日) 13:00~16:40

場所: 岡山大学

研究発表:

(1) “Designing a One-minute Critical Speech Class Curriculum for the High School Classroom” Hiroko Murakami (Graduate School of Temple Univ.)

(2) 「第二言語習得におけるアウトプットと気づきの役割—アウトプットの直後に関連したインプットに触れるというプロセスが言語形式の保持

に与える影響—」岩中貴裕（神戸女子短大）
(3)「英語のリスニングのメカニズムについて—
PSUと記憶の分析から—」小山尚史（岡山大）
(4)「ロアルド・ダールの‘Edward the
Conqueror’における英語表現と曖昧性について」
田淵博文（就実大・短大）
講演：
「Communication Strategies: 研究の成果と課題」
高塚成信（岡山大）
（鳥越秀知・詫間電波高専）

〈関西支部〉

1. 2007年度 関西支部秋季支部大会

日時：2007年10月13日（土）

場所：滋賀県立大学

テーマ：「日本における英語教育の課題と展望」

ワークショップ：

「アジア諸国における小学校の英語教育から日本
は何を学ぶか」河原俊昭（京都光華女子大）、川
畑松晴（金沢学院大）、後藤田遊子（北陸学院短大）、
辻伸幸（和歌山大学教育学部附属小）、仲潔（九
州女子大）

実践報告：

「発見学習のための大学院生TAを活用した学部英
語科目における作文課題の実践」梅咲敦子（立命
館大）、ゴードン・ラッツラフ（立命館大）、平尾
日出夫（立命館大）

研究発表：

(1)「実践的コミュニケーション能力向上に資す
る外国語彙学習教材作成システムの開発」竹蓋
順子（大阪大）

(2)「経済学部出身者の職場における英語使用に
関する質問紙調査」清水裕子（立命館大）

(3)「日本人英語学習者の発話に発話潜時の違い
が及ぼす影響—復唱課題および自由回答式質問課
題に基づく心理言語学実験—」森下美和（神戸
大大学院生）

(4)「タスクモードの違いが英語の冠詞使用に与
える影響：日本人英語学習者のアウトプット分析
から」福田真里（神戸大大学院生）、田中順子（神
戸大大学院）

(5)「再帰代名詞の省略と意味論的研究」井上卓
（関西学院大大学院生）

基調講演：

演題：「確かな文法と豊かなコミュニケーション」
岡田伸夫（大阪大）

☆ 69名の参加を得、好評のうちに無事終了した。

2. 第2回講演会

日時：2007年12月16日（日）15:30～17:00

場所：コープイン京都

講師：植松茂男氏（摂南大）

演題：台湾の早期英語教育の現状と課題—台北市
文化国民小学校の例を中心に

3. 第4回研究企画委員会・第4回運営委員会

日時：2007年12月16日（日）

場所：コープイン京都

議題：関西支部秋季大会の反省、春季大会の内容
の検討、その他

[今後の予定]

1. 第11回卒論・修論研究発表セミナー（関西英
語教育学会と共催）

日時：2008年2月16日（土）

場所：神戸流通科学大学

2. 2007年度支部長・理事・幹事打ち合わせ会

日時：2008年2月23日（土）

場所：大阪キャンパスポート

主な議題：新年度活動計画原案他

3. 第3回講演会

日時：2008年3月2日（日）16:00～17:30

（受付は15時45分から）

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス

（阪急梅田駅 茶屋町口改札口より北へ徒歩5分）

講師：井狩幸男氏（大阪市立大）

演題：「脳科学からみた言語習得」

司会：木村博是（近畿大）

資料代：会員 無料、非会員 500円

4. 2008年度関西支部春季大会

日時：2008年6月7日（土）

場所：摂南大学 寝屋川キャンパス

大会テーマ「変わりゆく英語教育—英語教育再
考—」

（奥田隆一・和歌山大学）

〈中部支部〉

今回は9月から12月までの役員会、定例研究会、支部ニューズレターの報告です。

1. 2007年度支部役員会

[第5回支部役員会]

日時：9月29日（土） 13:00～14:45

場所：南山短期大学

報告事項：

- (1) 全国組織構成委員会、理事会
- (2) 12月の定例研究会について
- (3) ニューズレターについて
- (4) 記念論文集について

協議事項：

- (1) 支部長選挙について
- (2) 理事選出について
- (3) 2008年度中部支部大会について
- (4) 定例研究会について
- (5) 2008年度中部支部大会とJALTとの共同開催について

[第6回支部役員会]

日時：11月3日（土） 14:30～16:30

場所：中部大学名古屋キャンパス

報告事項：

- (1) 50周年記念事業
- (2) 12月の定例研究会について
- (3) JACET賞について

協議事項：

- (1) 2008年度中部支部大会について
- (2) 次期支部長候補者選出について
- (3) 理事選出について

[第7回支部役員会]

日時：12月15日（土） 13:30～14:30

場所：名古屋学院大学さかえサテライトキャンパス

報告事項：

- (1) 50周年記念事業および組織構成委員会
- (2) 中部支部記念論文集および中部支部紀要について
- (3) 「第2次授業学研究委員会」について

協議事項：

- (1) 2008年度中部支部大会について
- (2) 次期支部長候補者選挙結果について

2. 定例研究会

日時：12月15日（土） 13:30～14:30

場所：名古屋学院大学さかえサテライトキャンパス

講演：

講師：西口光一（大阪大留学生センター）

演題：「第2言語習得と習得支援」

研究発表：

『日本人にとってライティングとは何かー語学力、内容、スタイルの視点からー』

「語学力の視点から」佐藤雄大（名古屋大大学院）

「内容の視点から」木村友保（名古屋外国語大）

「スタイルの視点から」齋藤卓哉（東邦高）

3. JACET - Chubu Newsletter

No.19が11月19日に発行された。

（村田泰美・名城大学）

〈関東支部〉

1. 支部合同会議

日時：

2007年11月17日（土） 16:00～16:30

2007年12月15日（土） 16:00～16:30

2008年1月12日（土） 16:00～16:30

場所：JACET事務所

議案：支部の委員会構成について、各委員会報告、2008年度全国大会について、新研究企画委員人事等。11月17日には次期の関東支部長選挙が行われ、中野美知子（早稲田大）を選出した。12月15日には次期の関東支部選出理事として、石田雅近（清泉女子大）を選出した。

2. 支部月例研究会

(1) 11月月例研究会

日時：2007年11月17日（土） 17:00～18:00

発表者：大石晴美（岐阜聖徳学園大）

「第二言語習得における最適脳活性状態とその教授法：光トポグラフィを使用して」

(2) 特別講演会

日時：2007年11月22日（木） 17:30～19:00

講演者：Ron Carter（University of Nottingham）

「The Changing English Language 2000-2010」

会場：早稲田大学

(3) 12月月例研究会

日時：2007年12月15日（土）

発表者1：林さとこ（津田塾大）

発表題目：「日本語教育を通して考える多文化共生」

発表者2：竹前文夫（目白大）
発表題目：「日本におけるCT教育－江戸時代に
遡って」

（中尾正史・桐朋学園芸術短期大学）

〈東北支部〉

1. 支部役員会

日時：12月8日（土）13:00～14:30

場所：ニッセイ仙台ビル8階会議室

協議事項：

- (1) *TOHOKU TEFL* VOL. 2について—編集経過・
予算など
- (2) 『JACET東北支部通信』No. 33の「会員から
の報告」について
- (3) 2010年9月の全国大会の開催について—候補
地・時期など
- (4) JACET社団法人化後の支部の人事について
- (5) 社団法人JACET設立総会への支部代議員の出
席について
- (6) 授業学研究会の設立について—法人化とのか
かわりなど

2. 支部月例会

(1) 10月月例会

日時：10月13日（土）14:40～17:00

場所：エル・ソーラ仙台第2研修室

研究発表：

「音階階層による重名詞句移動の分析について」
西原哲雄（宮城教育大）

重名詞句移動（Heavy NP Shift）の生起につ
いて考察がなされた。Zec & Inkelas（1987）の検
討の後、実際の例を基に、英語の重名詞句移動の
音韻的適用条件が音調句であることが提案され
た。

講演：

講師：Lucy Cooker（神田外語大）

演題：“Assessing Learner Autonomy in the SALC:
How Is It Done?”

講演者自身が設立に携わった神田外語大学
SALC（Self-access Learning Centre）で提供して
いる自律学習支援のための6つのプログラムが紹
介された。自らの研究テーマである自律学習の評
価に関して、多様な実践例に基づきながら効果的
なアプローチが論じられた。

(2) 12月月例会

日時：12月8日（土）14:30～16:40

場所：ニッセイ仙台ビル8階会議室

研究発表：

「山形大学 Town Sketch Podcasting: 静止画から
動画配信へ」森田光宏、富田かおる、本多薫、
IRWIN, Mark（山形大）

英語学習用ポッドキャストの開発事例と
して、山形大学人文学部で考案した“Town
Sketch Podcasting”に関する研究が発表された。
音声と画像での配信、現在進められている動画配
信などの実践が紹介された。

講演：

講師：又江原裕（The Japan Times 論説顧問）

演題：「英語は道具か、目標か」

長年にわたって英語新聞の記事を書き、編集の
仕事にも携わってこられた講演者自身の体験が語
られた。4技能に通じた英語ライティングのプロ
フェッショナルとしての観点から、学びを継続す
る効果的な方法が示唆された。

3. 支部通信の発行

『JACET東北支部通信』No. 32（2007年9月）が
発行された。

4. 今後の予定

支部役員会を3月1日（土）または15日（土）に
東北工業大学一番町ロビーで開催する予定であ
る。また『JACET東北支部通信』No. 33が3月に、
TOHOKU TEFL（JACET東北支部紀要）VOL. 2が
3月に発行される予定となっている。

（岡崎久美子・宮城工業高専、弓谷行宏・
宮城大学、宮曾根美香・東北工業大学）

〈北海道支部〉

1. 研究会の開催

(1) 2007年度第2回研究会

日時：2007年12月15日（土）13:00～14:00

場所：藤女子大学

発表：「Halliday機能文法のテキスト読解指導へ
の活用」（JACET北海道談話分析研究会・佐々木
勝志・北海道武蔵女子短大）

(2) 2007年度第3回研究会

日時：2008年2月2日（土）14:00～15:00

場所：藤女子大学

発表：「英語ライティングラボの開設と運営—ラ
イティングチュータープログラムの可能性—」（森

越京子・北星学園大短大部)

2. 支部役員会の開催

(1) 2007年度第4回役員会

日時：6月16日(土) 13:00～15:00

場所：藤女子大学

報告：支部長報告・幹事報告・各種委員会報告

議題：支部大会について・総会の議題について・
支部長選挙について・創立20周年記念賞の継続
について・その他

(2) 2007年度第3回役員会

日時：2008年2月2日(土) 15:00～17:00

場所：藤女子大学

報告：支部長報告・幹事報告・各種委員会報告

議題：支部大会について・総会の議題について・
支部役員人事について・08全国大会招待講演者
発表司会者について・09全国大会私の授業につ
いて・その他

18:00より懇親会

3. 今後の予定

(1) 支部大会の開催

日時：2008年7月5日(土)

場所：北海学園大学

(2) 紀要およびニューズレターの発行

Research Bulletin of English Teaching 第5号,
JACET北海道支部ニューズレター第21号を発行
の予定。

(河合靖・北海道大学)

国際交流委員会からのお知らせ

担当理事 矢野安剛・早稲田大学

The 2008 Asia TEFL International Conferenceが
“Globalizing Asia: The Role of ELT” という大会
テーマで開催されます。

August 1-3, 2008

Sanur Paradise Plaza Hotel, Bali, Indonesia

編集後記

全国的に寒波に見まわれた年明けとなりましたが、今号がお手元に届く頃には、春の兆しが訪れているのでしょうか。JACETの社団法人化に伴って、「JACET通信」も、これまで以上に内容の充実や役割の明確化が求められることとなります。メンバー一同、気持ちを引き締めて、取り組んで参りたいと思います。

編集委員

理事 木村松雄・青山学院大学
委員長 尾関直子・明治大学
副委員長 大須賀直子・秋草学園短期大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
木村みどり・東京女子医科大学
Kate Allen・神田外語大学
Miller J. Charles・白鷗大学
遠藤雪枝・明治大学・非

2008年3月1日発行

発行者 大学英語教育学会 (JACET)

代表者 森住 衛

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話 (03) 3268-9686

FAX (03) 3268-9695

<http://www.jacet.org/>

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話 (046) 251-5775